

第 17 回思川開発事業生態系保全委員会 議事要旨

日 時：平成 29 年 2 月 23 日（木） 13:25～15:40

場 所：栃木県立宇都宮産業展示館（マロニエプラザ）大会議室

出席者：三島次郎委員長、酒井豊三郎委員、櫻井正美委員、高橋滋委員、
宮崎淳一委員、矢澤高史委員、柳澤紀夫委員（敬称略、委員五十音順）

議 事：

1. 取水・放流工における魚道と迷入防止対策

事務局より、対象魚種、魚道の形式、迷入防止対策、魚道の配置、今後の対応について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・コクチバス等の外来種の現況を確認した方がよい。
- ・サギ類による魚道内の魚の捕食対策が必要になると考えられる。

2. オオタカ営巣域での工事対策

事務局より、B つがい営巣中心域内の工事において実施する環境保全対策、工事中のモニタリングについて説明し、了解された。

3. 動植物への影響予測の更新

事務局より、レッドリスト改訂等に伴う新規種への影響予測、環境巡視等による新規確認植物への対応、ヒゴスミレの着目すべき種からの除外、魚類について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・ヒゴスミレは誤認と断定はできず、今後も注意して見ていくべきである。
- ・南摩川のカジカ大卵型の保全を考える必要がある。

4. モニタリング調査

(1) 環境調査等の現状と今後

事務局より、環境調査等の現状と今後について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・今後の主要課題に希少魚類の保全も挙げておくこと。

(2) オオタカ

事務局より、オオタカのモニタリング結果と平成 29 年度モニタリング計画について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・間伐の効果検証のため、間伐区域の植生を階層ごとに把握した方がよい。

(3) ムカシヤンマ

事務局より、ムカシヤンマのモニタリング結果と平成 29 年度モニタリング計画について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・ムカシヤンマ幼虫の生息条件として、土質と水分のバランスが重要である。

(4) 希少植物

事務局より、希少植物のモニタリング結果と平成 29 年度モニタリング計画について説明し、了解された。

(5) 環境保全地

事務局より、環境保全地のモニタリング結果と平成 29 年度モニタリング計画について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・今後のモニタリング調査の間隔は、まず 2 年に 1 回とすべきである。

(6) クマタカ

事務局より、クマタカのモニタリング結果と平成 29 年度モニタリング計画について説明し、了解された。

以 上